

教えて！米子城

第21回

米子城の発掘調査について その3



同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**。米子の歴史や文化（カルチャー）のことにくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力や謎に迫ります。今回は、平成28年度に行なわれた米子城の発掘調査の成果として確認された「**登り石垣**」について、調査を担当したハマノ学芸員を交えて学びます。

ミナちゃん：この前「史跡米子城跡保存活用計画」を見ていたら、米子城の最新の発掘調査の成果として、「**登り石垣**」のことが出てたわね。

ジローくん：たしか、去年10月の米子城フォーラムでも話題になってたよね。

かるちゃん：平成27年度の調査では深浦側の斜面の南東方向に「**八幡台**」が、同じく南西方向にある水手御門の下方では、古い石垣や郭の遺構が確認され（「教えて！米子城」第11回、12回参照）、さらに平成28年度の調査では、本丸の北側にある遠見櫓から内膳丸に向かって連なる登り石垣の存在が明らかになったんだね。今回は、これらの発掘調査を担当したハマノ学芸員に来てもらっているので話を聞いてみよう。

ハマノさん：こんにちは、皆さんお久しぶりですね。よろしくお願ひします。さて、そもそも「登り石垣」とは何ぞやというところからお話ししましょう。普通、石垣といえば平場に築かれた郭の土台部分というイメージだと思っんですけど、登り石垣というのは、山の尾根のラインに沿って、文字どおり斜面を登っていくように築かれた石垣のことなんですね。

ミナちゃん：パッと見、斜めになっているのでわかりやすいわね。

ジローくん：歴史的にも軍事的にも重要な意味を持っているんだよね。

ハマノさん：そのとおり。登り石垣は、もともと日本のお城にはなかったのですが、豊臣秀吉が朝鮮出兵（文禄・慶長の役：1592～1598年）を行なった際に、朝鮮半島での自軍の前線基地として築いた「**倭城**」によく用いられた石垣なんです。当時最高レベルに達していた日本の築城技術をいかして、倭城の海に面したところにある軍港を守る目的で築かれた、強固な防御施設なんですよ。

かるちゃん：で、朝鮮出兵に参加した戦国大名が、この倭城の築城技術を日本に持ち帰り、自分たちの城をつくるときに取り入れたんだね。

ハマノさん：そうです。そこから日本の登り石垣の歴史が始まったんですよ。米子城の本格的な築城に着手した吉川広家も、やはり朝鮮出兵に参加してるんですね。ほかにも有名などころでは、彦根城や伊予松山城、淡路洲本城などでも見ることができます。じつは私、そんなこんなのお話を**3月11日（土）午後1時30分**から米子市立図書館2階の研修室で開催される「**伯耆文化研究会3月例会**」で、米子城の登り石垣についての調査成果として発表するんです。誰でも参加できる（要資料代200円）ので、ぜひ聞きに来てくださいね。

ミナちゃん・ジローくん：それはおもしろそう。みんなで聞きに行こう！



蔚山倭城（韓国）の登り石垣
（中井均氏提供）



彦根城の登り石垣（中井均氏提供）



米子城の登り石垣



米子城跡の発掘調査現場

興味が尽きない米子城跡発掘調査の話題。ハマノ学芸員の発表も聞きたいですね。次回もおたのしみに！

（米子市教育委員会 文化課）